

# Javaプログラミング実習

## 35. Stream API

株式会社ジーードライブ

# 今回学ぶこと

---

- Stream API の概要
- Stream API の使い方

# Stream API とは

---

- コレクション(List, Set, Map)に対する反復処理のためのAPI
  - forなどの反復処理と異なり、並び替えなどの中間操作を組み込むことができる
  - 並列／分散処理にも対応しており、マルチコアプロセッサの場合、実行速度の向上が期待できる

先に学習したストリーム入出力とは別のことです

# Stream API 利用の流れ

---

## 1. Streamの生成

- コレクションからStreamを生成する

## 2. 中間操作の実行

- 要素の並び替えや絞り込みなど

## 3. 終端操作の実行

- 各要素に対する操作

# Streamの生成

---

- Stream API を使用するためには、まず**Stream オブジェクト**を生成する必要がある
- Stream操作には**順次実行モード**と**並列実行モード**の2種類の実行モードがある
  - 並列実行モードでは、マルチコアプロセッサの場合に実行速度の向上が期待できる
  - ただし、扱うデータ数が多い場合や処理内容によっては順次実行モードよりも処理時間がかかる場合がある

# Streamの生成 (1)

- ListからのStream生成

```
List<String> fruits = ...;  
Stream<String> stream = fruits.stream();
```

- SetからのStream生成

```
Set<String> fruits = ...;  
Stream<String> stream = fruits.stream();
```

- MapからのStream生成

```
Map<String, Integer> fruits = ...;  
Stream<Entry<String, Integer>> stream = fruits.entrySet().stream();
```

並列実行モードの場合は **.parallelStream()** にする

# Streamの生成 (2)

- 配列からのStream生成

```
String[] fruits = ...;  
Stream<String> stream1 = Arrays.stream(fruits); // 方法1  
Stream<String> stream2 = Stream.of(fruits); // 方法2
```

- 個別要素からのStream生成

```
Stream<String> stream =  
    Stream.of("りんご", "バナナ", "ぶどう");
```

# 終端操作

---

- 要素の集合に対して最終的に行う操作
- 終端操作の例
  - ストリーム内の各要素を画面に表示する
  - ストリームをリストへ変換して後の処理へ回す
  - ストリーム内の要素数を数えるなどの集計を行う

# 終端操作

## 主な終端操作

メソッド	役割	説明
forEach()	要素の処理	$T \rightarrow \{ \}$ となるラムダ式を渡し、各要素に対する処理を行う。
count()	要素の集計	要素の数を取得する。戻り値はlong型
collect()	要素の収集	Collectorオブジェクトを渡し、要素集合をリストとして取得するなどの操作を行う。

# 終端操作の例

例：forEach()

```
List<String> fruits = Arrays.asList("りんご", "バナナ", "ぶどう");  
fruits.stream().forEach(e -> System.out.println(e));
```

コンソール表示

```
りんご  
バナナ  
ぶどう
```

例：count()

```
long count = Stream.of(50, 20, 80).count();  
System.out.println(count);
```

コンソール表示

```
3
```

# 終端操作

例：collect()

```
Stream<String> fruitsStream =  
    Stream.of("りんご", "バナナ", "ぶどう");  
  
// StreamからListへの変換  
List<String> fruits =  
    fruitsStream.collect(Collectors.toList());
```

引数はCollectorsのメソッド  
Collectors.toList()  
Collectors.toSet()  
Collectors.counting() など

# 中間操作

## 主な中間操作

メソッド	役割	説明
filter()	要素の絞り込み	$T \rightarrow \text{boolean}$ となるラムダ式を渡し、 true となるものだけが残ったStreamを取得する。
map()	要素の変換	$T \rightarrow U$ となるラムダ式を渡し、 変換後の Streamを取得する。
sorted()	要素の並べ替え	$(T, T) \rightarrow \text{int}$ となるラムダ式を渡し、 並べ替えられたStreamを取得する。
limit()	要素の絞り込み	集合の先頭から引数で指定した数の要素のみを含んだStreamを取得する。

# 中間操作の例

- filter()の例：値が60以上の要素のみ取得する

```
List<Integer> scores = Arrays.asList(60, 20, 80);
scores.stream()
    .filter(e -> e >= 60)
    .forEach(e -> System.out.println(e));
```

コンソール表示  
60  
80

- map()の例：Integer型からString型への変換

```
List<Integer> scores = Arrays.asList(60, 20, 80);
scores.stream()
    .map(e -> e + "点")
    .forEach(e -> System.out.println(e));
```

コンソール表示  
60点  
20点  
80点

# 中間操作

- sorted()の例：昇順は e1 - e2 降順は e2 - e1

```
List<Integer> scores = Arrays.asList(60, 20, 80);
scores.stream()
    .sorted((e1, e2) -> e2 - e1)
    .forEach(e -> System.out.println(e));
```

コンソール表示

80  
60  
20

- limit()の例：ストリームの先頭から2要素のみを取り出す

```
List<Integer> scores = Arrays.asList(60, 20, 80);
scores.stream()
    .limit(2)
    .forEach(e -> System.out.println(e));
```

コンソール表示

60  
20

# 練習

---

- 練習35-1
- 練習35-2